

【市・国調査】
清瀬市立清瀬第二中学校

教科	学年	観点別結果の分析	領域別結果の分析
国語	第2学年	継続して学習に取り組んでいる漢字の学習と、読むことの項目では全国平均を上回った。また、話す・聞く能力もほぼ平均と同様の結果だった。一方で国語への関心・意欲・態度と書く能力はやや不足している。自分の思いを言語化して書く活動を充実させる必要がある。	文章を読む力と伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の項目は全国平均以上の正答率だった。しかし、考えを言語化して書く力、記述式の問題に対応する力が不足している。テーマに沿って自分の意見をもつこと、意見に沿った根拠を用いた論理的な文章を書くことを意識した活動を増やし、力を伸ばす。
	第3学年	漢字の読み書きは継続して取り組んでいるためとの平均を上回った。しかし語句の意味は既習したのも日常的に使っていないと定着していないことが分かった。また文脈から語句の意味の推測し、内容の理解をする「読む力」が十分でない。文章をじっくりと読み取る活動を重視する。	言語に関する知識は全国平均以上の正答率である。一方、問題文に明記されていない状況や事柄を推測する力が乏しい。長文をじっくりと読み、内容を掴む活動を多く取り入れる。また語句の意味の学習に合わせて、それを使用した短文作りの活動により活用力を養う。
数学	第2学年	思考・判断・表現の問題で、ことがらが成り立つ理由を数学的に説明する力が不足していることがわかった。文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、それをもとに根拠を明らかにして説明する活動を充実させていく。また、資料の活用の問題では、目的に応じて収集したデータを整理し、分析に必要な代表値を判別する活動を取り入れていく。	図形の領域では、言葉や式の意味を読み取ることができており、全国平均を上回る問題も多かった。数と式の領域では、式の意味を読み取ったり、ことがらが成り立つ理由を説明する力が不足していることがわかった。問題解決の際に、判断の根拠や求め方の過程を自分の言葉で説明する活動を取り入れていく。
	第3学年	身近な事象を式やグラフで表現する力や、説明する力が不足していることが分かった。授業内で、根拠をもとに説明する活動を充実させていく。また、既習内容を用いて、新たな課題に活用する力が乏しいため、振り返る、見通しをもつといった活動も授業に取り入れていく。	関数の領域では、関数の意味を理解し、言葉で表現する問題で、無解答率が全国平均を上回った。文章を書くことに苦手意識が多い生徒もおり、まずは授業内で言葉で簡単に説明するような場面を多く設けていく。